



扇 寿

能代市立第五小学校

学校報 NO. 6
令和5年 6月 15日
TEL. 58-2178 校長室

〈校 訓〉 夢にいどみ 人と和す
〈教育目標〉 進んで学び 心豊かで すこやかな子どもの育成

回 覧

自治会の皆様
願ひします

たくましく生きるって…人の温かさを考えさせられました！

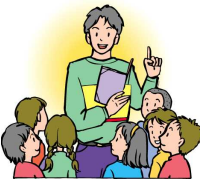
先週、第四小佐藤充校長（第40代五小校長）より「来校者が以前、第四小時代に担任してもらった金子秀成先生に会いたいと話している。母親と二人で県外からわざわざ来たようだ。日本籍ではない。面談した感じでは純粋な方で金子先生の都合がよければぜひ、会ってほしいのだが。」と電話があった。校内巡視をしていた私に変わり、滝沢教頭が金子先生と確認し、長休みの時間帯なら会えますと伝えてくれた。

母子は第五小の校長室に来るなり、「お忙しいところ、金子先生と会える機会を作っていただきありがとうございます。17年ぶりに会えるのが楽しみです。」と話してくれた。詳しく聞いてみると家庭の事情で母親と二人で中国から能代に来た。日本語は全く分からなかった。第四小に転入すると金子先生が担任してくれた。金子先生はやさしくて僕のためにパソコンを使って中国語でコミュニケーションをとってくれた。周りの友達も自分の周りに来てくれてとても温かかった。3ヶ月ほどして埼玉県へ転校した。大きな学校で児童も多く、先生も忙しそうで、能代とは全然違っていった。家庭のためにお金を稼ぎたくて中学校卒業後に働こうとしたが、高校進学を勧められた。自動車関係の仕事に就きたくて、専門学校も出て、働いているとのことだった。

彼は、埼玉県や自分の環境を悪くは言わなかった。28歳の彼にとって第四小で金子先生や友達と暮らした、たった3ヶ月が心の支えになっていたのだ。いつか会いたい、お礼を言いたいと思って暮らしてきた彼が、金子先生と再会でできてよかったと心から思った。あこがれのヒーローと会ったように、「金子先生はかっこよかった、やさしかった、ありがたかった。」とうれしそうに話し、握手し、写真を撮る姿を母親もうれしそうに見ていた。

帰り際に、「四小のインターフォンを押すことに勇気がいった。17年前、3ヶ月だけお世話になった私の話など聞いてくれるだろうか。でも金子先生に会いたい気持ちの方が強くお願いしました。能代の人や、学校は昔も今も温かい。」と話してくれた。「佐藤充校長も滝沢教頭も金子先生もみんな熱くて温かい人なんだ。あなたの話を聞いてこちらも温かい気持ちになりました。」と話した。

いろんなことを考えさせられた。私は、子どもたちにたくましく生きてほしい、一生懸命な姿で応援してもらえる人になってほしいと思って生活している。たくましく生きる彼を心から応援したくなったり、幸せになってほしいと思った。人との関わりは時間の長さだけではない、深さだよなあとか。学校の教師をしていてうれしい瞬間に立ち会えたなあとか。教員の仕事はすっかり人気が無くなったけれど、第五小の子どもたちの中から、熱く温かい先生を目指す子が出てこないかなあとか。誰がもった運でこのようなことが起きたかは分からないが、貴重な場に立ち会うことができエネルギーをもらい、空を見上げて感謝した。



強い小学生に！

毎朝あいさつ運動をしていると「校長先生、芽が出ました。僕だけまだ出ない。ナメクジの攻撃を受けています。」など水かけをしながら声をかけてくれます。朝から賑やかです。自分で植えたものが育ってくるとうれしいのでしょう。水やりにも優しさを感じます。

行事や校外学習はもちろん、日頃の授業や家庭学習も頑張っていると思っています。中学校の面談ではよく「勉強の仕方が分からない」という話が出ますが、「地道にやるしかない。一人一人の覚え方は違って、近道はない。楽しんでいつも100点取れる方法などないよ。」と答えていました。ノート展が始まりました。他者のよさを参考にしたいと思っています。

来週から1週間、岡山県から派遣教員が第五小学校に来ます。秋田や能代の教育を学びに来ますが、我々もいろんなことを聴きながら授業改善につなげたいと考えています。所長訪問や研究授業など、外部の方に見られる機会が多くなりますが、第五小の児童のよさを発信しながら、たくましく育てる手立てを考えていきたいと思っています。

登校班や縦割り班清掃、長休みや昼休みの遊びの中に先輩たちの優しさが溢れています。素直で優しい人たちだからこそ、簡単に折れない、たくましく生きていく人に育てたいのです。

